

WEEKLY SIGNAL

平成27年10月9日(金) 1294号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	10/12(月)	10/13(火)	10/14(水)	10/15(木)	10/16(金)
無担保O/N		0.030% ~ 0.125%			
銀行券		+ 1,200	+ 1,000	ト ン	△ 1,000
財政他		△ 55,000	+ 2,000	+ 54,000	△ 26,000
資金需給		不 53,800	余 3,000	余 54,000	不 27,000
主要要因		国庫短期証券発行・償還(3M・6M) 国債発行(30年)		年金定時払い 源泉税揚げ 国債発行・償還(2年)	交付税特会借入・償還 国債発行(5年)
オペ期日		共通担保(全店) △ 1,100 CP買入 △ 400	共通担保(全店) △ 9,100		
オペスタート	休日	共通担保(全店) + 600	共通担保(全店) + 9,100 短国買入 + 15,000 国債買入 + 11,800		
(日本)		日銀政策委員会・金融政策決定 会合議事要旨(9月14、15日分) 貸出・預金動向(9月) 消費動向調査(9月) 工作機械受注(9月)	企業物価指数(9月) マネーストック(9月) 日銀営業毎旬報告 (10月10日現在) 日銀が保有する国債の 銘柄別残高 日銀による国庫短期証券の 銘柄別買入額	マネタリーサーベイ(8月)	黒田日銀総裁挨拶 (全国信用組合大会) 対外対内証券売買(前週分)
(海外)	米 アトランタ連銀総裁講演 米 シカゴ連銀総裁講演 米 ブレイナードFRB理事講演	米 セントルイス連銀総裁講演	米 MBA住宅ローン申請指数 (9日終了週) 米 生産者物価指数(9月) 米 小売売上高(9月) 米 ベージュブック 欧 ユーロ圏鉱工業生産(8月)	米 新規失業保険申請件数 (10日終了週) 米 CPI(9月) 米 ニューヨーク連銀製造業 景況指数(10月) 米 ニューヨーク連銀総裁講演 米 グラブランド連銀総裁講演 欧 EU首脳会議(ブリュッセル)	米 鉱工業生産(9月) 米 求人件数(8月) 米 シガン大学消費者マインド 指数(10月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	0.100 ~ 0.120
SPOT 2M	0.118 ~ 0.125
SPOT 3M	0.118 ~ 0.135
SPOT 6M	0.130 ~ 0.150

<インターバンク>

日銀当座預金残高は発行要因等により前週末比約3兆円減少の237兆4,700億円から始まった。その後は国庫短期証券買入オペ・国債買入オペを主因に増加基調を辿り、週央は240兆円台で推移し、241兆300億円を越えた。無担保コールON物は、週を通して0.07%台半ばから後半の水準で取引され、加重平均金利は0.075~0.077%で推移した。ターム物は1~2W物0.11%台半ばの出合い。6~7日に開催された日銀金融政策決定会合では、金融市場調節方針の現状維持が決定された。日銀は、7日の国債補完供給オペにおいて初めて国庫短期証券(554回債)を供給した。同オペには480億円の応札があり、全額落札された。来週の予定としては、国内では9月14・15日分の金融政策決定会合議事要旨(13日)、全国信用組合大会における黒田日銀総裁挨拶(16日)、海外では、ベージュブック(14日)、米国CPI(15日)等が挙げられる。

[オープン市場]

NCD 3M	0.090 ~ 0.120
CP3M(a-1+)	0.060 ~ 0.080
TDB 3M	△0.010 ~ 0.000
現先(on/1w)	0.060 ~ 0.100

<CP>

今週の入札発行額は約4,500億円で、期落ち額約4,300億円(金融機関・ABCP除く)と同程度であった。期が明けたものの、復活発行の動きはまだ活発になっていない。a-1格相当銘柄の3M物入札発行レートは、0.080%近辺~0.090%近辺で推移した。現先レートの中心は、0.060%~0.100%程度で推移した。来週の期落ち額は約4,500億円程度となっている。

<TDB>

8日に国庫短期証券3M第563回債の入札が行われたが、最高落札レートは△0.0056%(前回債△0.0110%)、平均落札レートは△0.0105%(前回債△0.0188%)と前回債から利回りは上昇した。セカンダリーは3Mで△0.004%近辺の出合い。6M、1Yは目立った出合いは見られなかった。来週15日に3M、16日に1Yの入札が行われる予定である。

<レポ>

13日に新日銀ネットの稼働を控える今週の足許GCは、0.07%近辺の出合から始まり9日受渡では、S/Nは0.02%近辺まで低下した。一方、T/Nでは0.07%近辺まで上昇するなどボタイルな展開となり、短国3Mと6Mの発行日である13日受渡ではS/Nでは0.07%~0.095%、T/Nでは0.10%を超える出合も見られた。週末には短国・国債買入オペが2兆6800億円オファーされ、0.075%近辺まで低下し越えた。SCは9日受渡しのO/N物は足許GCの影響もあり、ネガティブレートでの出合が一部見られた。目立った銘柄として、30年48回債が入札前日に深いネガティブレートで付き、5年125回債は週央以降ネガティブレートで推移した。また、20年154回債は10/22エンドのビッドが目立ち△0.05%近辺の出合いも見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。